

# 【実施報告】地域コミュニティを考える出前講座 in 伊達市

令和7年度小さな拠点・地域運営組織形成支援事業  
持続可能な地域コミュニティ共創カレッジ

## 地域コミュニティを考える 出前講座 in伊達市

人口減少・少子高齢化の進展により、地域の役員の成り手不足、高齢者の移動の問題、自治会の運営など、地域には様々な課題が現れてきています。  
この催しは、地域コミュニティを持続可能なものにするために取組を進めている、様々な地区の事例を学べる出前講座です。  
これからの地域の活動に活かせるヒントがたくさんあります。ぜひご参加ください。

**日時** 10月11日(土)  
13:30~15:30  
(開場13:00)

**場所** 月館総合支所  
ふれあいホール2階

**対象** ①地域自治組織役員  
②行政区長・町内会長  
③集落支援員 など  
定員：50名

**プログラム**

- ①県の取組説明  
福島県の施策を説明します。
- ②事例紹介  
地域運営組織・小さな拠点の意義や、県内各地区の地域内交通をはじめとした取組事例等を紹介いたします。
- ③質疑応答・意見交換  
質疑応答や参加者同士で感想を共有し今後の取り組みのヒントを考えましょう。

**事例紹介**

人口減少や地域コミュニティの年齢構成の変化の中で、これからの地域運営の手法としての「地域運営組織」や「小さな拠点」について、地域課題の解決に取り組む様々な取り組み事例を紹介します。

**お申し込み**

右の二次元コードよりお申し込みいただくか、以下までお電話、メールでお申し込みください。  
(お名前、ご住所、電話番号をお伝えください。)

伊達市協働まちづくり課 電話 024-575-1177  
電子メール kyodou@city.fukushima-date.lg.jp

締切り：10月3日(金)

※持続可能な地域コミュニティ共創カレッジ：小さな拠点・RMOづくりに必要なスキルを実践的に学ぶほか、同じ思いを持つ仲間との交流などを通して、持続可能な地域コミュニティの共創を目指す事業です。

令和7年度小さな拠点・地域運営組織形成支援事業  
主催：福島県企画調整部地域振興課 共催：伊達市  
運営・お問い合わせ先：みらいくる「持続可能な地域コミュニティ共創カレッジ」事務局  
staff@miraikuru.org

作成：令和7年9月12日

## 開催概要・プログラム

日時：令和7年10月11日(土) 13:30~15:30

会場：月館総合支所 ふれあいホール2階

定員：50名 参加者：35名

主催：福島県企画調整部地域振興課 共催：伊達市

県の取組説明

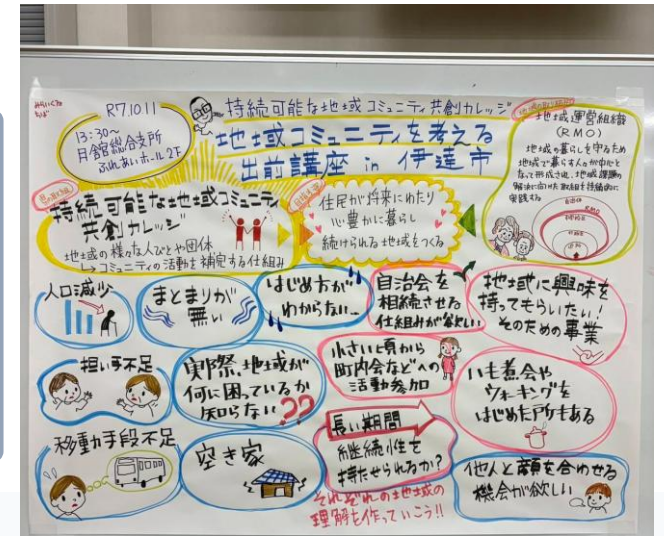
事例紹介 (50分)

休憩

質疑応答・意見交換 (40分)

※個人ワーク・グループワーク含む

## 当日の様子



# 参加者の声～アンケート・感想より～

## 満足度・主な意見

アンケート満足度：非常に高い評価（「分かりやすかった」「もっと聞きたい」）

事例紹介に共感し、他地域の取組が参考になった  
短期ボランティアなどの具体的な活動アイデアに関心  
若者や家族層へのアプローチの必要性を認識  
出前講座の定期開催（年1-2回）を求める声

## 特徴的な気づき

参加のハードルを下げ、誰でも関わりやすい仕組みが重要  
多世代・多様な主体を巻き込むことの必要性  
定期的な活動評価とPDCAサイクルの構築  
補助金に頼らない継続可能性の担保が課題

## 地域の課題（感想・課題共有シートより）

深刻な役員・ボランティアの担い手不足（高齢化、複数兼務）  
高齢者の移動手段（交通・足）不足とデマンド交通の不便さ  
地域参加の固定化や住民間の「温度差」  
若者・家族層、女性の参画不足（ジェンダーバランス）  
活動の評価やフィードバック体制の欠如

## 今後のアイデア（参加者提案）

1-2時間の小さな活動や活動リストの公開でハードルを下げる  
SNSや学校・PTA等を通じた若者へのアウトリーチ  
出前講座の定期開催と自由討論（世代間対話）の場の設定  
移動支援（ドア・トゥ・ドア、ミニバス等）の具体化  
ボランティアの募集・育成、役員継承計画の策定  
活動評価とフィードバックループの構築

# 成果と話し合いのポイント（伊達市）

## 主な成果・気づき

### 高い満足度と課題共通性の認識

「分かりやすかった」「どの地域も悩みは同じ」

### ニーズ調査と事業評価の必要性

「やりっ放しではなく評価が必要」「住民ニーズの把握」

### 具体的な活動への意欲

短期ボランティアや交通支援（ドアtoドア送迎）への関心

## 話し合いのポイントと今後の課題

ハードルを下げる小さな活動の創出（1-2時間の参加等）

若者・女性へのアウトリーチ強化（SNS、PTA等活用）

継続的な学習・対話の場の提供（定期開催と世代間交流）

交通・移動支援の具体化と担い手発掘

活動の継続可能性担保（他団体連携や資金調達戦略）